



## やねよりたかい こいのぼり

主任 樋谷 桃代

園庭でこいのぼりが元気に泳いでいます。大きなこいのぼりを見て、子どもたちは大喜びして、自然に「こいのぼり」の歌が聞こえてきました。

年長組の子どもたちは、本物と同じように自分たちも大きなこいのぼりをつくるんだ！と、やる気がみなぎっていました。一人では難しいことでも、友達と一緒にならできるかもしれないと、3～4人のグループで取り組むことにしました。担任の先生が作った「相談シート」を使って、こいのぼりの体の色、うろこの形や色、目の色等相談しながら進めました。一人で行う場合は、自分の好きな色や形で決めることができますが、数人の友達と一緒に進めるには自分の思いだけでなく、友達の意見も取り入れる必要があります。この活動が始まった頃は何も言わずに自分の好きな色や形を先に書き込んでしまったり、だまってやりたいことを先に始めてしまったりする姿もありました。担任に促されながら徐々に「この色でもいい？」「〇〇ちゃんは、どれがいい？僕はこれがいいと思うんだけど」など、必要な言葉を交わして進めていくようになりました。そのような活動の中で自分と違う意見をもっている友達の存在や、言葉でコミュニケーションをとる大切さを知っていきます。製作過程でも自分のペースで進めることはできず、やりとりが必要になります。「セロハンテープ

### 相談シート



を切って渡すから、貼って行ってね」「私は型をとるよ」「誰が切る？僕はここまで切るから、〇〇ちゃんはここから切ってね」等、言葉でのやり取りをしながら役割分担をしていました。もちろん、自分の思いや考えを言葉に出すだけでなく、なかなか言葉に出せない友達に尋ねたり、表情から気持ちを感じたりする経験も必要です。

この活動を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿である「協同性」や「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」など、様々な姿が総合的に育まれています。

年少組の子どもたちも園庭のこいのぼりだけではなく、年長組の子どもたちが作った大きなこいのぼりを見て、自分のこいのぼりを作りました。発達に合わせて必要な経験ができるように、教員が材料や大きさ、製作の方法や手順を考えて教育活動を展開しています。子どもたちは、自分で作った自分のこいのぼりを持って、嬉しそうに走り回っています。



幼稚園生活を通して幼児が様々な経験をして、健やかに育っていけるよう、教職員全員で支えていきたいと思えます。